

蘭蕒草

〔空穂物語 藏開上〕ひさしのわたりには、おほいなるひとりによき程にうづみてよきぢん、あはせ、たきものおほく具へて、おほひつゝ、あまたすへわたしたり、御帳のかたびらかべしろなどは、よきうつしどもにいれしめれば、そのおとゝのあたりは、よそにてもいとかうばし、ましてうちにはさらにもいはず、しるしばかりうちほのめぐひるのかななどは、ことにもあらず、

〔新撰字鏡 草〕阿良々々支 蕒家阿良々支

〔本草和名 十八〕蘭蕒草 出崔 和名阿良々岐

〔倭名類聚抄 十六〕蕒 蕒 養生秘要云、蘭蕒音隔 和名 阿良々木

〔箋注 倭名類聚抄 鹽梅〕按蘭蕒草、爾雅所謂蕒山蒜蓋是、其菜薰臭、故名蘭蕒也。又按爾雅釋文、蕒力、的、反、爾雅又云、莞苻離、其上蕒、郭注今西方人呼蒲爲莞、蒲、蕒謂其頭臺首也。釋文蕒、郭音翻、廣韻亦

云、蕒山蒜、郎擊切、又云、蕒蒲臺頭名、下各切、是山蒜之蕒、蒲臺頭之蕒、其音不同、此當以歷音之、音隔、非是。○中 新撰字鏡、蕒阿良良支、蕒家阿良良支、按蘭蕒草、蒜之生於山者、今俗呼野蒜者是也。以葦

菜故名、岐、與葱訓、岐同、而是物自生稀、疏不得、如園種蒜、葱之稠密、故云阿良良、猶神功紀阿邏邏摩、菟磨邏之阿邏邏也、允恭紀所謂蘭一莖者、即蘭蕒草、蓋操觚者厭繁節之、故單言蘭、然仍訓阿良良

幾、不訓布知波加麻、可以見非蘭蕒之蘭也。大膳職內膳司等式及雜要抄所載蘭、亦即此內膳司式、別有山蘭、蓋亦是物、

〔饅頭屋本節用集 草木〕アラクキ 蘭葱

〔倭訓栞 阿前編 二〕アラクキ あら、ぎ 日本紀に蘭をよみ、和名抄に蘭蕒をよめり、荒々葱の義にて、蘭葱をい

へり、大膳式に蘭幾把と書せしも是なり、又山蘭といふものも見えたり、催馬樂に、手なふれそといへる是なるべし、新撰字鏡に蕒を家あら、きと見えたり、倭名抄に辛夷をやまあら、きと訓せるは、其香をいふなり、今も木襲に玄かいへり、齋宮の忌詞に、塔をあららきといふは、阿蘭若の